

麻生副総理・財務大臣・金融担当大臣

BG2C 2020 開会御挨拶 [仮訳]

2020年8月24日【ビデオ出演】

みなさま、おはようございます。副総理・財務大臣の麻生太郎でございます。

本日は、「Blockchain Global Governance Conference」及び「FIN/SUM Blockchain & Business」にご参加頂きまして、誠にありがとうございます。

皆様ご存じかもしれませんが、日本が議長国を務めた今年のG20において、金融技術革新は優先議題の一つでありました。

昨年に福岡で開催されたG20ハイレベルセミナー（G20技術革新にかかるハイレベルセミナー）において、我々はブロックチェーンに焦点を当て、分散化された金融技術の影響について議論いたしました。

規制当局者、アカデミア、金融業界、技術者のコミュニティから参加した専門家達によって、分散型金融システムに対する健全なガバナンスを発展させるためにとり得るマルチステークホルダー型のアプローチについて議論いたしました。

そこで行われた実りある議論に支えられ、G20参加国メンバーからは、新たな金融システムに対するガバナンスについて、より幅広いステークホルダー間の協力を求めていくことで合意が得られました。

本日のカンファレンスは、G20で得られた考えを具体化するものであり、理想的なガバナンスの構築から、技術や適用事例の進展にいたるまで、ブロックチェーンに関する様々な最先端のトピックを扱います。

ブロックチェーンの活用は、金融におけるデジタル資産の分野に

限定されるものではありません。ブロックチェーンは、デジタルアイデンティティや貿易金融などの更なる高度化を含む、より広い分野において重要な役割を果たしうるのです。

たとえば、現在の広範囲にわたる伝染病との闘いにおいて、ブロックチェーンは高度なプライバシー保護を備えた接触確認に対する一つの解決策をもたらすかもしれません。それによって、我々は将来的なリスクを防ぎ、そして抑え込む能力を高めることができるでしょう。

ブロックチェーンコミュニティにおいて、依然として規制当局を敵視される方がいるかもしれません。それは、規制当局は技術への理解が欠けているために、イノベーションを阻害するかもしれない、という思いに起因するものかもしれません。

しかし、我々に求められていることは、最良のガバナンスの下での適切な技術の使用を考えてゆくために、お互い協力し、そして協働していくことです。そうすることにより、我々は人類の繁栄という共通の目標へ向けて前進することができるのです。

本日のカンファレンスが、そのような協力、協調のための有意義な議論の場となりますことを私は強く期待しております。

最後になりますが、このイベントの共催者であり、「FIN/SUM」の共同パートナーであります、日本経済新聞社に厚く御礼申し上げます。

ご静聴頂き、心より感謝申し上げます。是非この後の議論をお楽しみください。

ありがとうございました。

(以上)